

三月号

〈幼児〉 もものはな

〈小二〉 はるの足音
つくし たんぼほ
ももの花

〈小四〉 出てこい、
池の底のしげみの中で
手のなる音を
聞いたたら こい

〈小六〉 いつまでも絶えることなく
友達でいよう
あすの日をゆめ見て
希望の道へまた会う日まで

〈中学〉 お内裏様と おひな様
二人並んですまし顔
お嫁にいらした姉様に
よく似た官女の白い顔

〈入門〉 お嫁にいらした姉様に
よく似た官女の白い顔

〈実用部〉 かぐわしき春の来たれば
美しく花は造咲きたり
わが胸に愛の光は
夢のごとく訪れ初めぬ

〈鑑賞部〉 あまつ風 雲のかよひ路
をとめの姿 しばしとどめむ

〈臨書部〉 雁塔聖教序

〈小一〉 わたしたち
みんなそろって
二年生

〈小二〉 わたしたち
みんなそろって
二年生

〈小三〉 春がきた
山に花がさき
鳥が歌い出す

〈小四〉 春がきた
山に花がさき
鳥が歌い出す

〈小五〉 金のびょうぶに
うつる灯を
かすかにゆれる春の風
きょうは楽しいひな祭り

〈小六〉 金のびょうぶに
うつる灯を
かすかにゆれる春の風
きょうは楽しいひな祭り

〈中学〉 サトウハチロー
「うれしいひな祭り」より

〈入門〉 サトウハチロー
「うれしいひな祭り」より

〈実用部〉 「つりがね草」より

〈鑑賞部〉 吹きとちよ
僧正遍昭

〈臨書部〉 楮遂良

四月号

〈幼児〉 おてつだい

〈小二〉 赤、白、きいろ
きれいな
チューリップ

〈小四〉 あたたかい風が
かけてくよ
木をめをヒューと
起こしながら

〈小六〉 公園や河原は
花盛り
辺り一面 さくら色
明日はお花見、うれしいな

〈中学〉 ポツカリ月が出ましたら
舟を浮かべて出掛けませう
波はヒタヒタ打つでせう
風も少しはあるでせう

〈入門〉 ポツカリ月が出ましたら
舟を浮かべて出掛けませう
波はヒタヒタ打つでせう
風も少しはあるでせう

〈実用部〉 淡墨ザクラを見る人は
花片だけを 仰いでいるのではなく
そこに込められた「文化」という
人間の営みをみているのであるう

〈鑑賞部〉 うかりける 人を初瀬の 山おろし
激しかれとは 祈らぬものを

〈臨書部〉 雁塔聖教序

〈小一〉 ぴかぴかの
いちねんせい

〈小二〉 赤、白、きいろ
きれいな
チューリップ

〈小三〉 なかよし小道
ランドセルしょつて
通う道

〈小四〉 あたたかい風が
かけてくよ
木をめをヒューと
起こしながら

〈小五〉 かすみか雲か
野山をそめる花ざかり
さくらよ さくら
春の花

〈小六〉 公園や河原は
花盛り
辺り一面 さくら色
明日はお花見、うれしいな

〈中学〉 ポツカリ月が出ましたら
舟を浮かべて出掛けませう
波はヒタヒタ打つでせう
風も少しはあるでせう

〈入門〉 ポツカリ月が出ましたら
舟を浮かべて出掛けませう
波はヒタヒタ打つでせう
風も少しはあるでせう

〈実用部〉 淡墨ザクラを見る人は
花片だけを 仰いでいるのではなく
そこに込められた「文化」という
人間の営みをみているのであるう

〈鑑賞部〉 うかりける 人を初瀬の 山おろし
激しかれとは 祈らぬものを

〈臨書部〉 雁塔聖教序

〈実用部〉 うかりける 人を初瀬の 山おろし
激しかれとは 祈らぬものを

〈鑑賞部〉 源俊頼朝臣
（百人一首）

〈臨書部〉 楮遂良